

「だいち2号」観測データの干渉解析による西之島の地殻変動

火砕丘の北東側及び東側に溶岩の堆積等によるとみられる非干渉領域(砂目模様場所)が引き続き見られ、海岸線まで到達しています。(図1、図2)

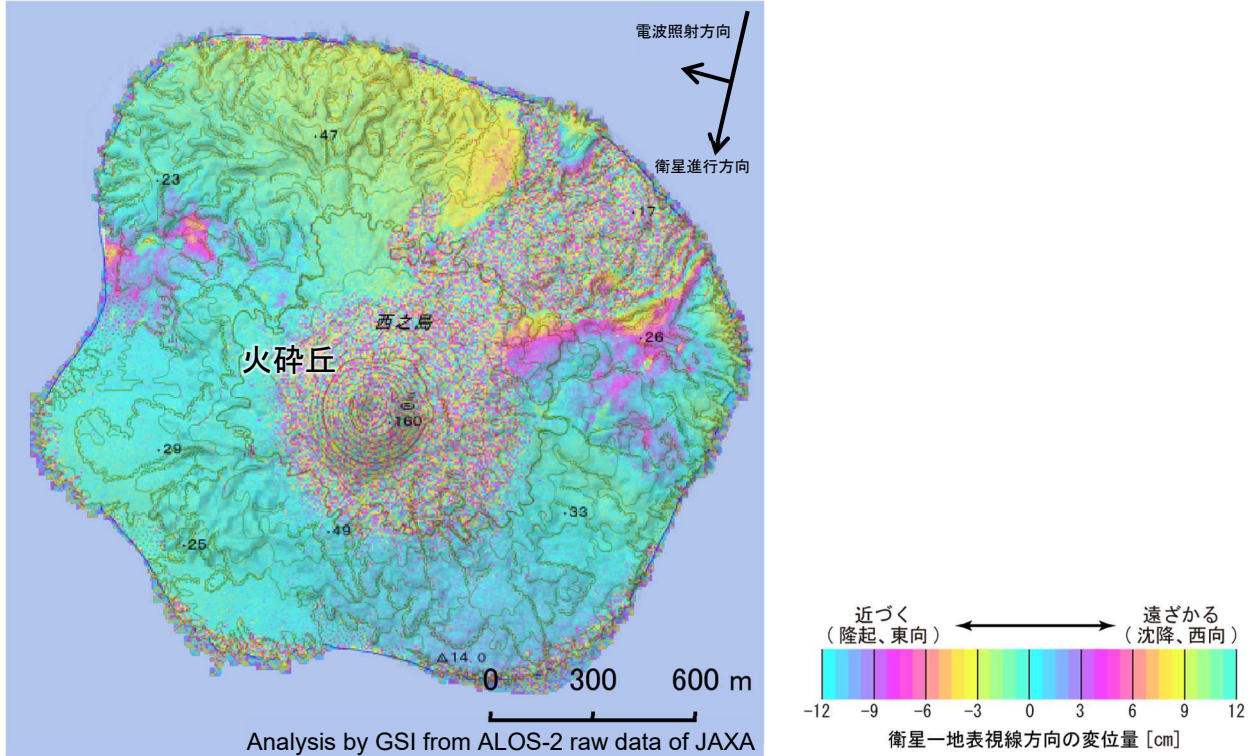


図1 2020年1月3日~2020年1月17日 11:18 衛星進行方向 南行、電波照射方向 右、入射角 58.7°

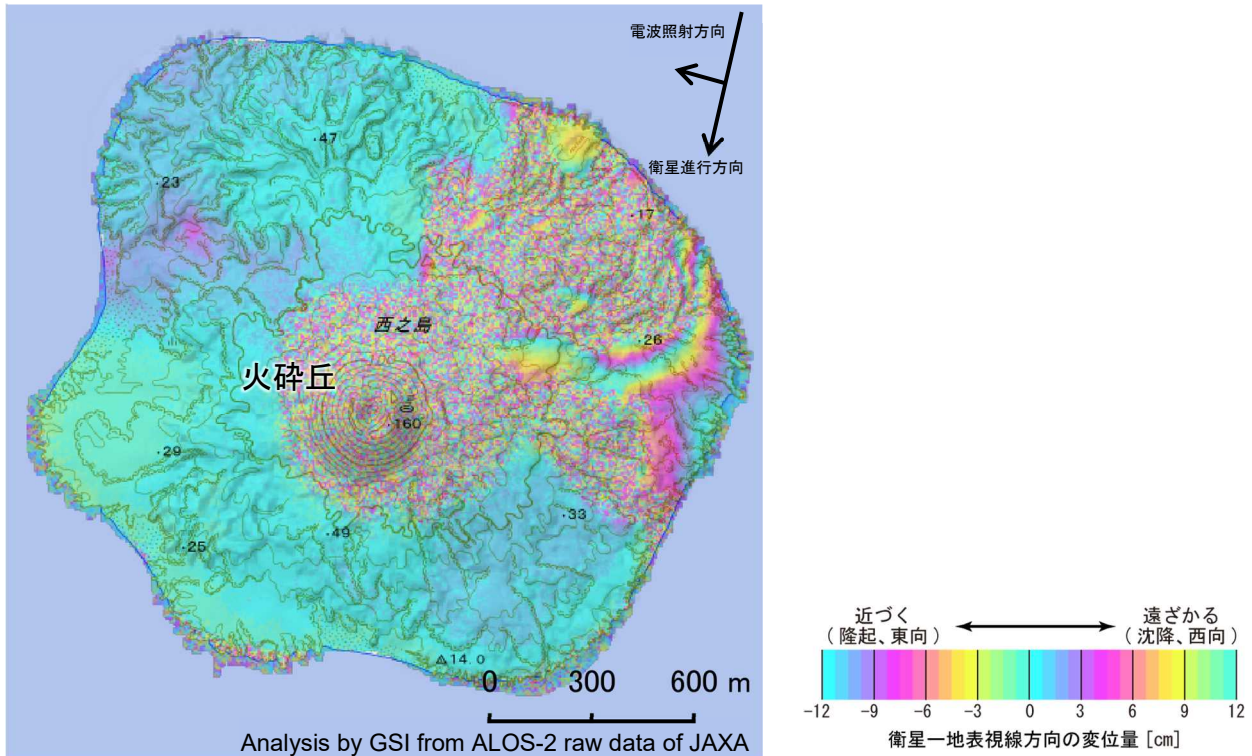


図2 2020年1月17日~2020年1月31日 11:18 衛星進行方向 南行、電波照射方向 右、入射角 58.7°

※2018年1月時点の海岸線を越えた領域の位相情報は表示されていません。

本解析のデータの一部は、火山噴火予知連絡会衛星解析グループの活動を通して得られたものです。

国土地理院

「だいち2号」観測データの強度画像による西之島の地形変化

一連の噴火活動に伴い、西之島の北東側から東側で溶岩等によるものとみられる地形変化が継続しており、海岸線が変化しています。(図3～図6)

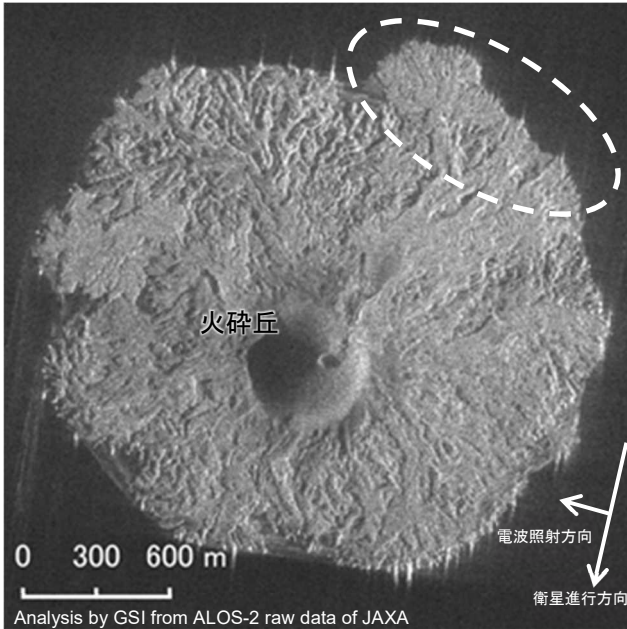


図3 2020年1月3日 11:18
衛星進行方向 南行、電波照射方向 右、入射角 58.7°

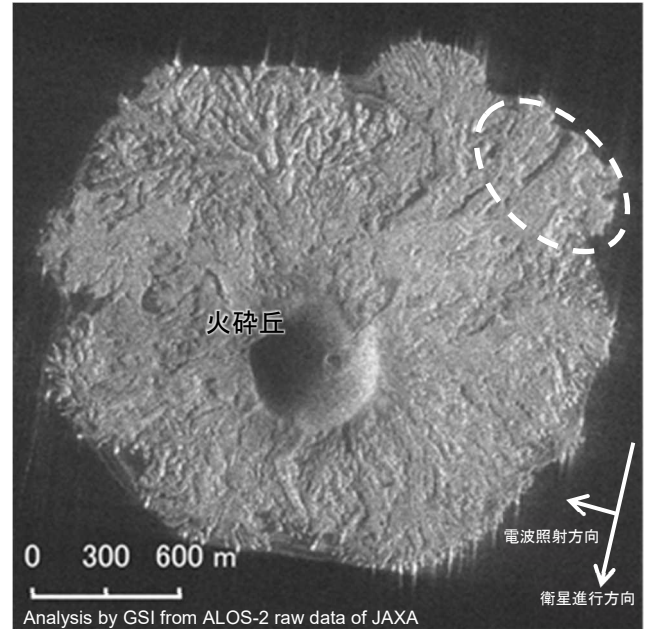


図4 2020年1月17日 11:18
衛星進行方向 南行、電波照射方向 右、入射角 58.7°

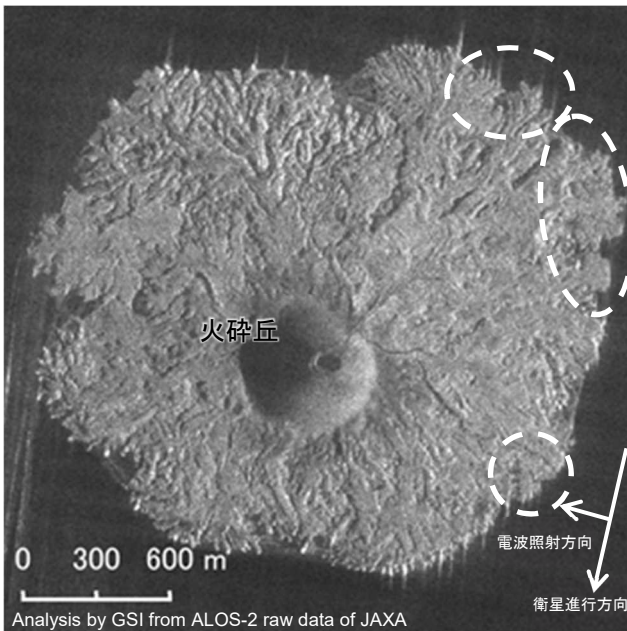


図5 2020年1月31日 11:18
衛星進行方向 南行、電波照射方向 右、入射角 58.7°

※海岸線の変化部分は、図3～5の白破線内

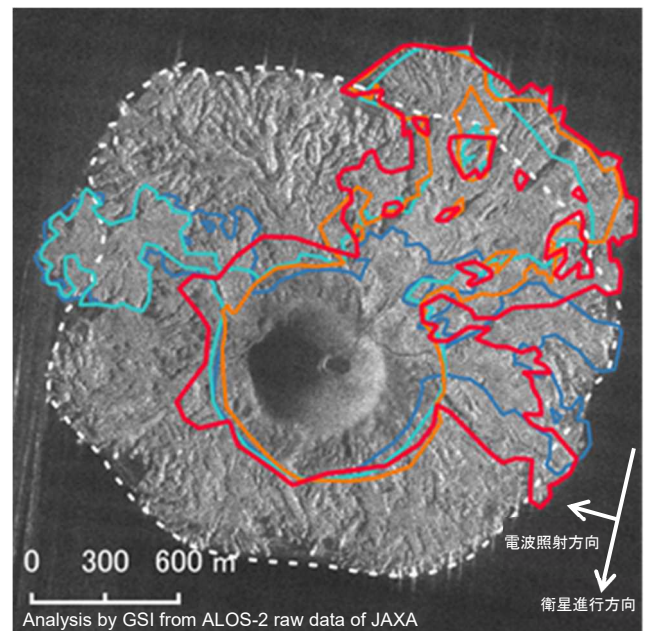


図6 一連の噴火活動に伴う火山噴出物の堆積変化
噴火前(2019年11月22日)の海岸線を白破線で、
火山噴出物の堆積分布について、2019年12月22日青、
2020年1月3日水色、1月17日橙、1月31日赤の実線で示す。背景は1月31日の強度画像。